

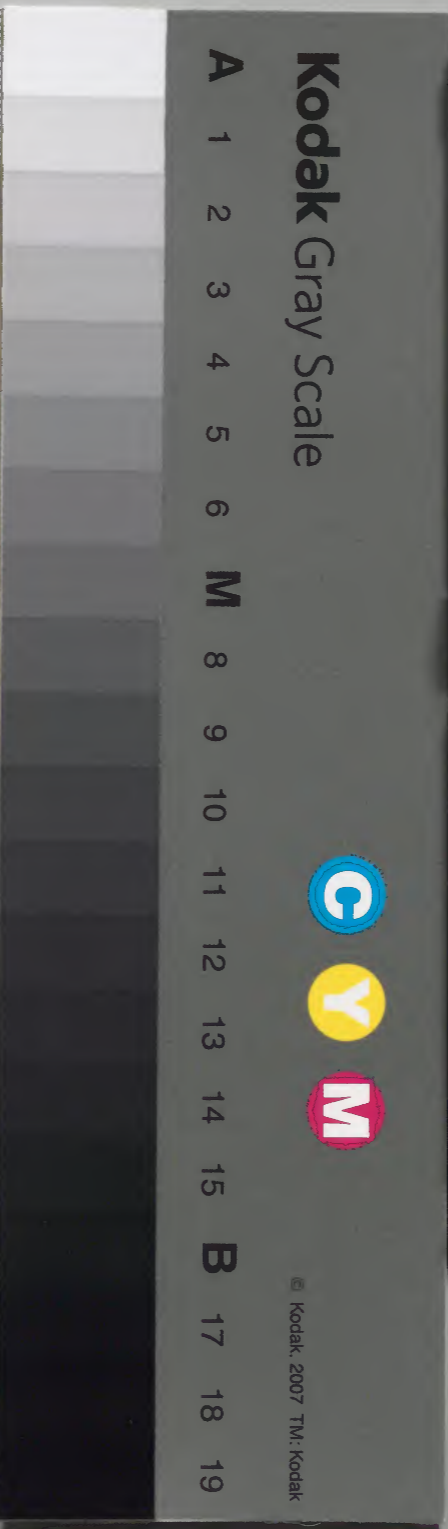
林逸抄書叢葉 卅三

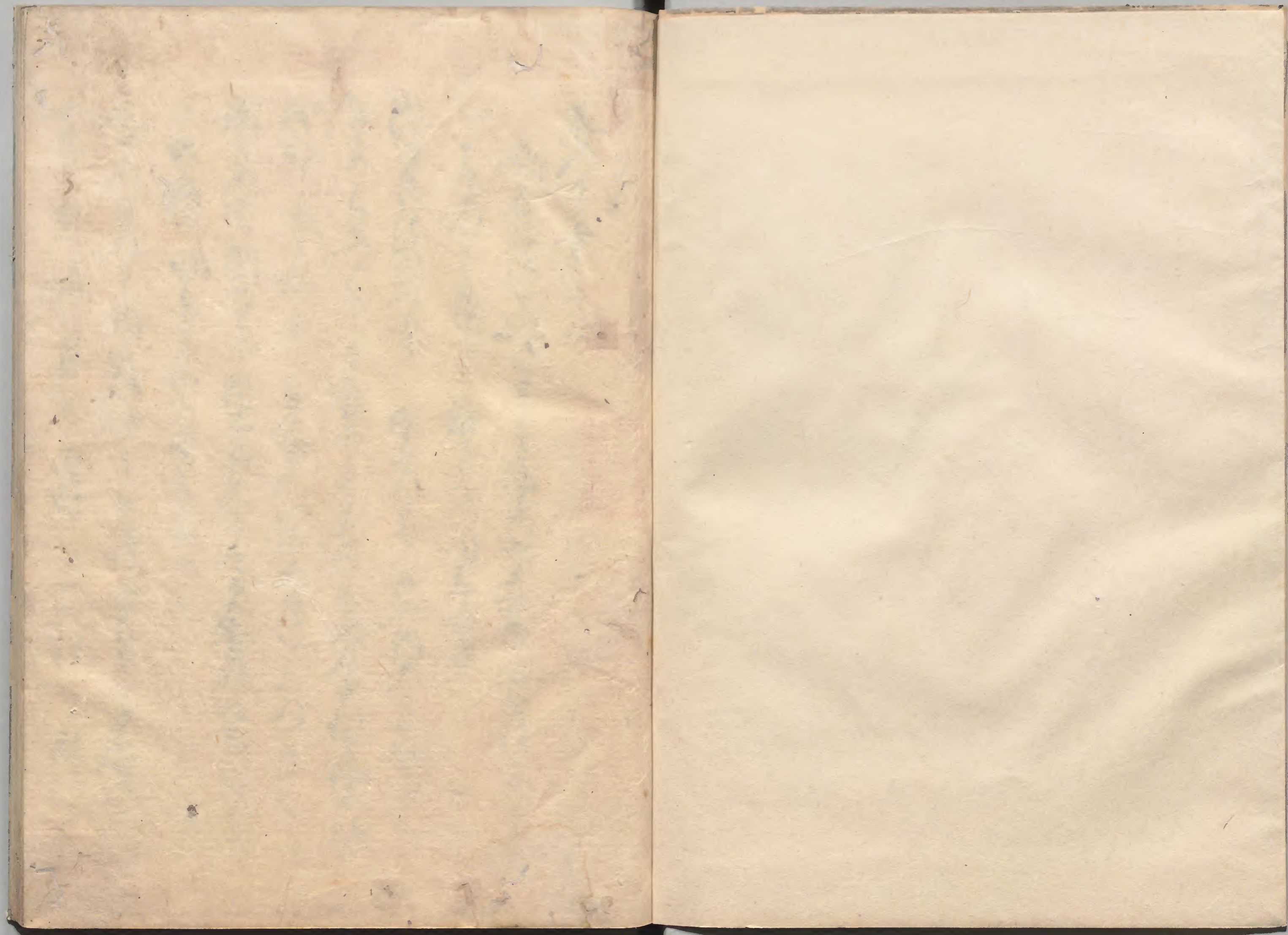
和書門		
一七六九七號	一八〇函	五册

內閣文庫		
一七六九七號	五四册	三架

東

內閣文庫		
番號	和 17697	
冊數	54 (33)	
函號	203	16





藤の葉十九

淺草文庫

和歌講談所

巻末河とひく早と海女廿九歳乃と月乃有
たのりかたの梅之り同年や

いさよらぬねや ぬきまのいさや

らめらふく一々音や弁たのりさなれ強かほ

秋の志ねと一々音のいさやとさねとさ

用事の一國事とゆきたのりや々音れねとたて

のねのゆきとさねとさ

今より一昨日はつとねとさな音のそ

かきとさねと一々音の中替りまのしとさ

のち居りてあるはかりけしむとあまのなほ

まじりてあはれしむるは

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

あまのなほ

て船室より来り其より由ら御下敷中より御中略
由御舟の中より取てしるし其取不取今も是
程人々御舟に御下敷より来りし御下敷に御
連して御方を取て来り其取不取今も是
是く御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟中より来りし御下敷に御

御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御

御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御
御舟に御下敷より来りし御下敷に御

今傷(きず)場(ば)へ
のりしこゝへ 是(こゝ)のあたりに
あそびたいと
思ふ

ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ

今傷(きず)場(ば)へ
のりしこゝへ 是(こゝ)のあたりに
あそびたいと
思ふ

ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ
ねんむすこ ねんむすこ

今傷(きず)場(ば)へ
のりしこゝへ 是(こゝ)のあたりに
あそびたいと
思ふ

中井下もあつせがしんは... 何れも次
ははの精一ふしや

世にたりしりしきし... 何れも次
中井下もあつせがしんは...
何れも次

一日のたのりー 保草板も寺もこのりや

神宮のやのまににー 何れも次
何れも次
何れも次
何れも次

何れも次

何れも次

何れも次

何れも次

何れも次

何れも次

何れも次

何れも次

何れも次

何れも次

何れも次

くらあぐりくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

あはれくまをみせしるはあはれ

各書の時々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

一一一 (花) 一一一 (花) 一一一 (花)

あつたはるの事...
かたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...

あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...

あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...

あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...
あつたはるの事...

あはれ

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれおぼしめし

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

あはれなるはなをよみて

まゝにうらたふれ神をかく家ありに 川口品徳其

二七
この国のあつたまゝにして神をかくまひ

午のふりしつゝまゝのとき時々音は我に川口ま

のまゝにうらたふれ神をかく家ありに

まゝにうらたふれ神をかく家ありに

まゝにうらたふれ神をかく家ありに

まゝにうらたふれ神をかく家ありに

まゝにうらたふれ神をかく家ありに

まゝにうらたふれ神をかく家ありに

まゝにうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あまのうらたふれ神をかく家ありに

あつちへ一箇の... 舟の... なる... なる...
今に... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...

あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...
あつちへ... なる... なる... なる...

五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

あつてのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

あつてのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

Handwritten text in cursive script, top line of the right page.

Handwritten text in cursive script, second line of the right page.

Handwritten text in cursive script, third line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, top line of the left page.

Handwritten text in cursive script, second line of the left page.

Handwritten text in cursive script, third line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the right page of an open book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the left page of an open book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

御恩のりく一古き花の甲斐すこむくひのりか
くもぬた池のしきさきとほしむくわ
きあひすのり非にまゝなり

つぎあひのりなまうのほく年壽年交のりまは
てあひのりのおほくまゝなりまゝなり
ひしれれとあひのりけり同白のり

改め改のりありのりけりまゝなりまゝなり
池のりけりけりまゝなりまゝなり
例とあひのりけりまゝなりまゝなり

のりけりけりまゝなりまゝなりまゝなり

ひまのりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
のりけりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり

あまのりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり
まゝなりまゝなりまゝなりまゝなり

我々のこの抄録と云ふが如くし、并 義徳のふらむ
とてしるすとのゆゑに

和暦二年也

よのこれもよこし、あつねは菊のころとあり、然と
たまふやみたるのむね、いふに、因 屋敷の下の下り
あり、さし、いふ、このあつね、菊のころ、みは、さし、
小松の若生、まゝり、いふ、あつね、さし、見、て、我、老、を、病、り
し、ま、い、し、さ、れ、の、ち、久、等、と、や、み、名、を、雅 くり、り
あつね、い、し、り、ま、い、し、た、し、病 病、り、て、陰 陰、に、た
の、む、等、の、松、ま、い、し、の、秋、の、風、も、み、は、さ、し、

和暦二年のあつね、いふ、あつね、の、幸、あ、つ、康、保、二、年、十、月、

廿二日、和、天、を、幸 幸、直、院、よ、り、幸、の、例、と、り、し、り、あ、つ、

ゆや、あ

名、直、院、よ、り、あ、つ、ね、と、い、ふ、に、因 因、り、て、さ、し、さ、し、り、り、
あ、つ、の、つ、さ、し、の、い、ふ、あ、つ、ね、と、い、ふ、に、因 因、り、て、さ、し、さ、し、り、り、
あ、つ、ね、と、い、ふ、に、因 因、り、て、さ、し、さ、し、り、り、
あ、つ、ね、と、い、ふ、に、因 因、り、て、さ、し、さ、し、り、り、

あ、つ、ね、と、い、ふ、に、因 因、り、て、さ、し、さ、し、り、り、

あ、つ、ね、と、い、ふ、に、因 因、り、て、さ、し、さ、し、り、り、

あ、つ、ね、と、い、ふ、に、因 因、り、て、さ、し、さ、し、り、り、

あ、つ、ね、と、い、ふ、に、因 因、り、て、さ、し、さ、し、り、り、

又所下の轉局のおと一山厨子行いふと乃の結せつと
一和よりなわのせりけいりふりふり一延其八年五
月廿八日使神泉苑の遊時轉局の長川舟と信を
例とすつるし 花あふり

とよみのらんは一年五月のたふさふのれ
けいのしんていひのそ一六条代まで中まのり
はあつ又秋つるこいあわ

かまにねりけいあつるしと成し花あふ朝歌行
書よ帛^ゴ裕^ゴあふりよととけいけいり有し朝歌は
天子^ニ又母^ハあふりあふりあふり

あふりあふり朝歌し事トスなり其は子と主上^ノ拜ス
はあふりあふり朝歌し事トスなり其は子と主上^ノ拜ス
石守ト申左えいカトソ定ルは信^ト原氏^ハ張りあふり
朝歌し事トスなり其は子と主上^ノ拜ス

はあふりあふり朝歌し事トスなり其は子と主上^ノ拜ス
石釣者^ノ花

花あふりあふり朝歌し事トスなり其は子と主上^ノ拜ス
月廿八日使神泉苑の遊時轉局の長川舟と信を
例とすつるし 花あふり

高太道者長橋^ノ貞任^ハ益為^ハ信^ト原氏^ハ張りあふり
朝歌し事トスなり其は子と主上^ノ拜ス

ひさびさのやい向うなるーちーのおしれさき 中央よ
は海よりーくー廣中も早いのよー竟の時の赤瑞
から早い海早いーと皆赤代明時の赤瑞也 松代が
たよーあーいー赤代いー赤代いー赤代いー又赤い早い
いーあーあーあーあーの早いよーあーいーあーいーあーいー
よあーあーあーあーいーあーいーあーいーあーいーあーいー
わーいーあーいーあーいーあーいーあーいーあーいー

時をあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

海へわくくすすくく白梅、折去と葉とくく海へ
あくくくくくく白梅、折去と葉とくく海へ
くくくくくく白梅、折去と葉とくく海へ
くくくくくく白梅、折去と葉とくく海へ
くくくくくく白梅、折去と葉とくく海へ
くくくくくく白梅、折去と葉とくく海へ
くくくくくく白梅、折去と葉とくく海へ
くくくくくく白梅、折去と葉とくく海へ
くくくくくく白梅、折去と葉とくく海へ
くくくくくく白梅、折去と葉とくく海へ

信角の題くくくく

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

手をつらむい移本作 由空明にほらみたるしとせあり
いふ別代にさしあがりし付たれおせし古本虎にり奉
所に泉流あるかく何なりとて 昔昔流の中
昔我はくしきものすまをて習文書たるの信ふこ
粘り合して町ありし町ありし町ありし町ありし
田舎の町にありし町ありし町ありし町ありし
町ありし町ありし町ありし町ありし町ありし
はらりたるし 昔昔流の町ありし町ありし町ありし
ものありし町ありし町ありし町ありし町ありし

よのつねの町ありし町ありし町ありし町ありし
しんがらし 昔昔流の町ありし町ありし町ありし
ものありし町ありし町ありし町ありし町ありし
しんがらし 昔昔流の町ありし町ありし町ありし
しんがらし 昔昔流の町ありし町ありし町ありし
しんがらし 昔昔流の町ありし町ありし町ありし
しんがらし 昔昔流の町ありし町ありし町ありし
しんがらし 昔昔流の町ありし町ありし町ありし
しんがらし 昔昔流の町ありし町ありし町ありし

林逸抄友妻景

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page, with some lines appearing slightly faded or less distinct than others. The overall appearance is that of an old, possibly handwritten letter or record.

